

気がつけば認知症介護の沼にいた。

もしくは推し活ヲトメの極私的物語



気がつけば〇〇シリーズ第2弾は「認知症介護」の世界！

30代推し活ヲトメが「2040年問題」と対峙する!!

きっかけは、認知症介護のグループホームの職員たちが、祖父を看取ってくれたことだった。

オタク歴20年、社会人歴10年。

「推し=人生」と豪語する推し活ヲトメが、
「認知症介護」の世界に迷い込む……。

入職初日にキノコさん（施設利用者）から手渡しでプレゼントされたものは、
ゴルフボール大の便=U・N・CHI だった————!!!!!!!

昭和一桁生まれのガンコジジイによる軍歌リサイタルで耳に異変、90歳ハイソレディからの強烈ビンタ、「易怒性（いどせい）」強めな激おこ淑女からの口内食物噴射、80代のおじいちゃんの口説き文句で乙女心強奪、病院内で「売春婦！梅毒！」と叫びまくるおばあちゃん、よりによってお餅を差し入れしてくる迷惑家族、老人同士の殴り合い！リアルファイトクラブ勃発、押しツヨ上司からの秘儀「労災封じ」、センサーと身体拘束と虐待問題、労働基準監督署に駆け込むと脅すハラスメントなモンスター新人、深夜のお看取り一部始終、夜勤明けの缶ビールと汁なし担々麺、食べられなくなっていく利用者と食べることが大好きな自分の狭間で感じたこと、優しく支えてくれた利用者さんとの別れ……etc.

夜勤中に起きた大事件！

「バカ女、殺す」「包丁で首切って殺す」「殺す！」

まさに介護の現場は命がけ!?

認知症介護の世界でよくいわれる「その人に合った介護を提供できていない」とはどういうことなのか？ “超、が付くほど真面目で感情移入しがちな性分の著者は、バラエティーが豊かすぎる施設の面々との戦いの日々にも身も心もズタボロに……。

とはいえ、どんなに辛くとも、推し（乙女ゲーのキャラクター）は私に「愛している」と言ってくれる……。だから大丈夫。家に帰れば、いくらでも彼に会える……。そうやって自分を鼓舞し続ける日々が、少しずつ彼女の意識を変えていく――。

「いつでも辞めたい、でもなんだかんだそこそこ楽しい」
「人生のラストステージを任される仕事」
「毎日がラスボス戦(だから経験値もいーっぱいもらえるよ)」

各メディアでも取り上げられることが多くなってきている認知症介護の現場を、批判でも暴露でもなく、人生の先輩たちへのリスペクトと愛をもって丁寧に綴りきった、まさに“笑いあり涙あり”の人間ドラマノンフィクション！

コミュ障で奥手だった著者が、認知症介護と向き合うことで、“凶々しさ”に近い生きる力を身につけていく……。この現象を「沼（ゲームやアニメなどの作品にどっぷり“ハマって”しまう様子）」と呼ばずして何と呼ぶ!?

ドラッグロック、ボディチェック、経腸栄養剤、ムース食、陰洗ボトル、尿取りパット、リハビリパンツ、下顎呼吸……etc.認知症介護業界の専門用語もしっかり解説しています。

少子高齢化社会が避けられぬ地球上の全ての人に捧ぐ！



気がつけば認知症介護の沼にいた。

2023年11月20日（月）、発売！

※注：厚生労働省によると、2022年4月の時点で特別養護老人ホーム入居の待機者数は、日本全国で約27万人。“特養”の順番待ちをしている認知症の利用者が、一時的にグループホームへ入居してくる……というパターンは非常に多い。また、社会問題のひとつ「2040年問題」とは、第二次ベビーブームの時に生まれた団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になる年で、同時に日本の高齢者人口がピークに達するといわれている。このような超・高齢化社会になると、労働力人口が減少しあらゆる業種が人手不足になるだろうと推計され、こうした問題にどう対処してゆくか、政治家たちは頭を悩ませているだろう。

古書みつけ <https://kosho-mitsuke.com/>